

県の保健師ら派遣

AMD A調査チームも

最大震度6弱の地震で大きな被害を受けた鳥取県の被災地を支援するため、避難所での健康相談などにあたる県の保健師チームや国際医療NGO「AMD A」(本部・北区)の調査チームなどが24日、続々と県内を出発した。

県の保健師チームは、県職員の保健師4人と事務職員2人の計6人で構成し、鳥取県倉吉市で活動する。出発を前に県庁で式があり、代表して県備前保健所の大西万理子・総括副参事が「普段通り住民の方に安心、安全を与えられるよう頑張りたい」と述べた。

現地では避難所や要援護者のいる家庭を回り、健康相談に乗った

り、感染症予防の啓発活動を行ったりする。派遣期間は30日までで、その後も県は継続的に人員を派遣する。

また、県は、被災した建物の危険度を判定する被災建築物応急危険度判定士10人も鳥取県に派遣した。期間は

26日までの3日間、住宅などの被害状況を調べながら二次被害の危険度を見極める。

一方、AMD Aは、看護師と調整員による3人の調査チームを派遣。倉吉市を中心に被災者への聞き取りなどで現地でどんな支援が必要とされているのかを調べ、今後の支援につなげる。

【竹田迅岐、林田奈々】



鳥取県に向かう前に出発式に臨んだ保健師チームのメンバー。県庁で